エネルギー・環境・リサイクル
Energy, Environment and Recycling

(株)相双スマートエコカンパニー

代表取締役社長
岡田 美洋さん

取締役兼
事業開発部長
岡村 聰一郎さん

▲企業情報

福島県内企業を含む8社が共同出資した会社。震災で発生した廃棄物の再資源化に取り組む。

廃棄物の再資源化、物流、放射線管理など、各社の得意分野を生かしながら運営。

相双スマートエコカンパニー(相双SEC)は、東日本大震災で発生した不燃性廃棄物を取り扱う企業です。原発事故によって管理区域に指定された地域からは、大量の災害瓦礫や復旧・復興工事等の廃棄物が発生しています。その中心は金属、ガラス、瓦礫などの燃えないごみ。その中には放射性物質が含まれる物もあり、再資源化などの処理には放射線への徹底した安全管理も必要になります。

相双SECではこういった廃棄物の輸配送と再資源化処理を一貫してコントロールし、ITやロボットを活用して環境保全と従業員の安全を確保しながら計画的な処理に取り組んでいます。その事業を支えているのが、高度な放射線管理と効率的な再資源化処理の仕組みです。相双SECでは専門的な技能を持つ複数企業のコンソーシアムで構成されている強みを生かし、その実施態勢を実現しています。

相双SECを構成するのは、DOWAエコシステム(株)、太平洋セメント(株)、(株)クレハ環境、荒川産業(株)、恵和興業(株)、(株)高長、東京パワーテクノロジー(株)、メルテックいわき(株)という企業群です。この8社が福島イノベ構想の下、ふくしま環境・リサイクル関連作業研究会をきっかけとして協力。2018年10月に相双SECを設立し、2020年10月には大熊町の国道6号沿いに設けた処理工場を稼働させました。工場内は放射線管理区域となっているため、従業員や運搬車両の出入りには厳格な放射線管理が必要。このため入口ゲートではロボットによる放射線検査が行われています。検査を通過した廃棄物は品種ごとに破砕機で処理され、素材ごとに分別。出口ゲートでも放射線検査が行われ、安全を確認できた物が資源として出荷されます。金属類は鉄、アルミ、銅などの素材に、コンクリートやアスファルトは破砕されて道路の路盤材として活用。このほかガラスや瓦なども再資源化が図られています。

▲重機群が稼働する処理工場では1日350tの再資源化処理が可能。

多数の工程を支えている従業員は、その多くが出資企業からの出向者です。DOWAエコシステムから出向している岡田美洋社長は「工場の創業期は経験と技能を持つ熟練者が必要。出資企業から供給される人材の存在は大きい」と話します。また太平洋セメントから出向している岡村聰一郎取締役も「出資企業ごとに専門分野が異なるため、専門性に応じて配属を決定している」と説明。出資企業からの出向者がそれぞれの得意分野を生かし、総合力で事業を支えていることを強調していました。

▲運搬車両が工場外へ出る際にはロボット4台で放射線量を確認。

参画のポイント

新たなまちづくりと復興への思いを共有したい。

出向者の多さが表す通り、人材確保は相双SECの課題のひとつ。被災地で働くこと、技能習得に掛かる時間など難しい面もありますが、将来的には現地採用を進めていく方針です。また企業間連携も検討中で、太陽光パネルのリサイクルに向けた取り組みにも積極的。岡田社長と岡村取締役はともに「浜通りの新しいまちづくりに向けて復興への思いを共有したい」と話し、事業を通じた地域復興を見すえていました。その実現を目指して連携先とともに被災地の事業環境づくりを図り、関係各所にインフラや法律の整備を求めていく考えです。